



こんにちは

村田 けい子

みなさんのご意見・ご要望をお寄せ下さい。フェイスブックやっています。

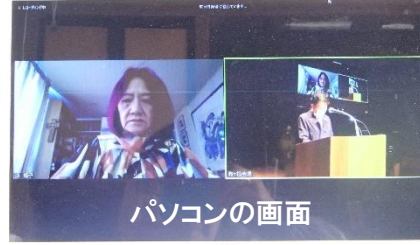
移動事務所 090-9144-8534

発行/日本共産党立科町議会議員 村田桂子 立科町塩沢1483 ☎0267(56)2868

2021.2.5
No288

長野県母親大会in 飯田

経済活動というのは「弱い立場の人によりそい、涙する目、傾ける耳、差し伸べる手を持つ人にこそ、行える活動」アホノミクス、スカノミクスではできない。(浜さんの講演より)



パソコンの画面

1952年東京都生まれ。一橋大学経済学部卒業。前職は三菱総合研究所主席研究員。1990年から98年まで同社初代英国駐在員事務所長としてロンドン勤務。現在は同志社大学大学院教授で、経済動向に関するコメンテーターとして内外メディアに執筆や出演

◆経済活動は人間の営み

◆経済活動は人間を幸せにするため

◆経済活動は他者のために泣ける人

1月31日(日)午後2時からonlineで結んで浜矩子さんの講演を聞きました。浜さんは三菱総研の主席研究員として活躍後、同支社大学大学院ビジネス研究科教授として、日本共産党の「とことん共産党」で小池晃さんとの対談もあり、「小さき

ものの幸せが守られる経済へ」と同じタイトルで対談も。いわば経済界の真っただ中において研究を進めてこられた経済界のトップランナー浜さんが、「経済とは、弱い立場の人々に心を寄せてこれを救うためにあること、そしてそれは彼女のよって立つキリスト者としての立場と同じものであることを聖書の言葉も引いて説明。浜さんが私たちが目指す方向にかくも力強い賛同を示してくれていることに確信を。リモートではありましたが、かえってパワーポイントの図なども鮮明に見えて、講義がわかりやすくなっていました。

「アホノミクスの野望は帝国憲法の時代に戻すこと、スカノミクスは国民を監視し、力づくで従わせる独裁国家をつくること。」と断じていました。

国民一人一人を大切にする経済・政治への転換を強く励ましてくださった講演でした。



「さっそく作ってみたのよ」

今週のパチリ

好評です。ポスター張り出しにご協力を



「一歩踏み出しているところがいいね。」「前向きの姿勢が素晴らしい」と大好評。あなたの家の壁や庭、畑などポスター張り出しにぜひ、ご協力をお願いします。

4月25日 参議院補選
10月までには衆議院選挙があります。野党共闘と日本共産党に大きなご支援を。

読者さんから「日曜版に作り方が載っていたので作ってみました」と言ってマスクカバーをいただきました。「ありあわせの布で作ったんだけど」とおっしゃいますが、表地は元気のでる柄、中はまた落ち着いた柄となっていて、スナップで留めるようになっています。お茶を飲むなどマスクを外すときにどこに置こうかなと迷いましたが、これがあれば大丈夫。中に入れてスナップで留めればコンパクトに収納できます。さっそく作られた読者さんの行動力に驚きと感謝。私もまた、春柄のマスクを作ってみたくなりました。

千曲川台風被害復旧工事(本海野地区 484m) 総額15億円、 大林組 全面的にやり直し

(1) 工事概要 (施工状況)



欠陥工事13,400か所！484m全面やり直し！
の千曲川本海野地区

1.26日夜、海野町で開かれた住民説明会に参加。千曲川護岸整備の
1万3400か所に及ぶ不良工事の原因と対策をしめす説明会である。

不良工事となった発生原因として、①大型ブロックを設置する工事の難易度に対する理解と河川工事経験の受容性の認識が甘く、一般的な工事技術者を配置したこと。②広範囲の施行領域に対し、協力会社の配置技術者数が十分ではなかったこと(1人だけ)③河川工事経験を有するブロック工が配置できなかったこと ④担当技術者の出来形品質に対する重要性の理解と認識が不足していたこと、⑤品質を確認する本社・支社のバックアップ体制が機能せず、現場担当技術者の判断に対して、会社としてのチェック機能が働いていなかったことを上げた。

【大林組提案の改善策…全面的な再施工】

改善方法として、①技術者の配置換え、河川工事経験のある現場担当技術者を置く。

②協力会社の技術者をより経験のある主任技術者に交代し、河川工事経験の現場担当技術者を1名から増員する。③法面のブロック敷設工事は河川工事経験を持つブロック工を配置。④出来形、品質管理、写真管理の確認頻度を2倍に増やし、監督を強化する。チェックリストを基にチェックする。⑤支店からの品質証明員を常駐し、本社から品質証明確認員を任命し、週に1回以上は現場での進捗状況を管理する。などが示された。

【なぜ、最初からそうしなかったのか、それが一番の問題】

できるじゃないですか。「なぜ最初からそうしなかったのか」そこが一番の問題ではないですか。認識が甘かったというが、現場に足を運ばず、中には設計図ができていなくて工事を進めた場所もあったとの事。下請け会社からの問い合わせはなかったのか、設計図がなぜ間に合わなかったのか、設計図無しでも工事を進めるという判断は誰がしたのか・・・などなど次々と疑問がわいてくる。

要するに、大林組は、子会社に丸投げで現場の指揮・指導を全く行われず、仕事を受注してから10か月たってあらかた工事が終了したころ見に行ったら、1万3400か所の不具合を発見したということである。

台風19号での河川法面崩落の緊急修復工事を受注した業者がそのまま本工事を請け負ったというやり方も問題ではなかったか。総額15億円という巨大工事を随意契約で行ったことが、技術者の配置・工事の指導・監督などでゆるみ、甘い判断につながったのではないか。

建設業界にはびこる丸投げ体質。元受けが落札し、手数料を何割も引いて、安い工事費で下請けさせる。満足な指導もなく仕事を請け負わせているその体質が問題である。大手に一括発注すれば、国土交通省側は楽をできる。丸投げである。今回の事件は国土交通省とゼネコンの無責任体質を示している。大林組はしばらくの間、この不祥事の責任を取って入札停止にすべき。時間と税金の莫大な無駄使いの責任を取るべきだ。



【分割発注で責任工事を】

そしてこれからの工事は、工区を区切って、確実に技術者のいる中堅業者に直接工事を請けてもらうべきだと思う。ゼネコンは結局下請けに出すので、文字通りの実行部隊に利益を中抜きさせることなく請け負わせるのだ。こうすることで責任の所在は明らかとなり、真剣に工事に向き合える。地元住民は「天下の大林組が何たる失態だ」と非難していたが、結局丸投げ体質がこうしたお気楽な工事に結びついていると思う。堤防が決壊して浸水の恐怖におびえる近隣住民は、堅固な護岸工事を願っている。「原状復帰」ではなく、二度と起きないように対策強化が必要なのだ。現在の復旧工事は「元に戻す」ことが主眼だが、問題は災害が起きないようにすることが最大の課題のはずである。民営化や規制緩和が行き過ぎた。民間をチェックする専門家、技術者が絶えず目を光らせて、手抜き工事が起きないようにすることこそ、監督官庁の責任ではないか。国土交通省の担当者からの再発防止に向けた言葉は聞かれなかった気がする。(大林組の改善方針は聞いたが)。せつかく作った堤防を、全部壊して最初から作り直すなんてありえない不祥事、税金の無駄使いである。この責任は重い。

税金の無駄使いとして、徹底的に原因追及を！